

送 辞

春の光がやわらかく降り注ぎ、武田通りの桜のつぼみがほころび始める季節となりました。この度、晴れて山梨大学を卒業・修了し、新たな門出を迎える皆様、ご卒業おめでとうございます。在学生一同、心よりお祝い申し上げます。また、これまで卒業生・修了生の皆様を見守ってこられたご家族の方々、ならびに先生方や職員の皆様におかれましてもその感慨はひとしおのことと拝察いたします。

大きな期待と不安を抱き山梨大学の門をくぐった日から今日まで、どれほど多くの時間を積み重ねてきたことでしょうか。皆様は、この4年間でどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。講義や研究、実習、サークル活動、友人との語らい、それぞれの思い出が鮮やかによみがえっていることと思います。時には思うようにいかず、悩むこともあったかもしれませんが、そのひとつひとつが皆様の成長させ、今、この場に立つ力となったのではないのでしょうか。

この数年、私たちの生活は目まぐるしく変化しました。新型コロナウイルスによる制約がようやく緩和され、昨年には、パリオリンピックが開催されました。日の丸を背負った選手たちは、困難を乗り越え、世界の舞台で堂々と戦い抜きました。名場面の数々は、決して諦めないことが未来を切り開くのだと、改めて気づかせてくれるものでした。一方では、令和6年能登半島地震が発生し、改めて日常の大切さを思い知らされました。災害や感染症など予測不可能な出来事により、学生生活の様々な部分で我慢や苦労を強いられてきたことと思います。変動の激しい時代を生きる者として、共に励まし合いながら知恵と力を振り絞り、柔軟にかつ創造性を持って適応する姿は、私たち後輩にとって目指すべき大きな指針となりました。

今日を境に、皆様はそれぞれの道へと進まれます。社会の一員として新たな出発を迎える皆様は、これからの時代の移り変わりや社会の変化に応じて、地域の中核そして世界の人材として広い視野を持ち、行動していくことが求められると思います。そこには、新たな挑戦や試練が待っているかもしれません。しかし、山梨大学で学んだこと、出会った仲間、乗り越えてきた日々が、前へと進む原動力となり、背中を押してくれることでしょう。

私たち在校生も、皆様が築いてきた山梨大学の伝統を受け継ぎ、力強く歩み続けてこられた皆様の背中を道標に日々精進してまいります。

最後になりますが、卒業生・修了生の皆様に、心より感謝とお祝いを申し上げますとともに、新たな門出に際し、これからのご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

令和7年3月19日
山梨大学 在学生代表
医学部 看護学科
若月 裕乃